

今月の15首

佐佐木幸綱・選

光こそいのちと人の言ひたれど影またいのち初日を歩く

伊藤 一彦

寂しさに寂しさ重ねているような香月泰男の手を見ていたり

今井 洋子

火をかくし山は眠れりどつしりと土の重さを裾に広げて

松本 秀一

散居村は砺波と思ひ来し我に岩手の杉の囲む家々

岡部 和美

「南極大陸」 観つつ度々苦笑いす七次隊にて越冬せし夫

本川みや子

右手もて水着の女が指すそらよ ふはふはなりき二十世紀は

本田 一弘

わが家族を三十六年樂しませ柿の大樹は老い伐られたり

湊 美根子

日々の朝の空気を確かめる死ぬのは朝と決めているから

三宅 徹夫

岩木嶺の麓のりんご紅深み裾野の霧をそめばかしたり

長住百合子

朝五時の芦ノ湖昏し対岸に昨夜のすゑなるともしび揺らす

田中 薫

君と僕細君旦那さまなどとむかし品良き漫才ありき

河野 洋子

忠魂の碑も寒からん傍らに発光ダイオード灯る塔立ち

松田 英美

帯解いて顔を洗つて人間に戻れど「こん」としはぶく寒さ

花 美月

大木のある森でしか生きられぬ鼯鼠といふ不器用は美し

松岡 秀明

白雲の浮きいる空を背景にひかりふたたびひるがえす鳩

宇都宮とよ